

セ. 合併に関連した感情、意識、考え

問11 今から8年前の平成16年11月1日に、旧8町村との編入合併により現在の「鳥取市」が誕生しました。それに関連して、いくつかお尋ねします。

[1] あなたは、上記の合併の時点でどちらにお住まいでしたか。

		【旧鳥取市】	
			%
1	旧鳥取市	510	91.4
2	旧国府町	3	0.5
3	旧福部村	0	0.0
4	旧河原町	2	0.4
5	旧用瀬町	2	0.4
6	旧佐治村	0	0.0
7	旧気高町	0	0.0
8	旧鹿野町	0	0.0
9	旧青谷町	1	0.2
10	その他の市町村	37	6.6
99	無回答	3	0.5
	合計	558	100.0

		【旧町村部】	
			%
1	旧鳥取市	17	2.7
2	旧国府町	93	14.7
3	旧福部村	36	5.7
4	旧河原町	101	16.0
5	旧用瀬町	62	9.8
6	旧佐治村	30	4.8
7	旧気高町	110	17.4
8	旧鹿野町	57	9.0
9	旧青谷町	101	16.0
10	その他の市町村	15	2.4
99	無回答	9	1.4
	合計	631	100.0

[2] [1]で1.~9.のいずれかを選んだ方にお聞きします。[1]で答えた旧市町村と比べて、あなたは、現在の鳥取市をどの程度身近に感じていますか。一つ選んで○を付けてください。

【旧鳥取市】		%	
1	身近に感じる	45	8.1
2	ある程度身近に感じる	47	8.4
3	特に変わらない	352	63.1
4	ある程度遠く感じる	40	7.2
5	遠く感じる	22	3.9
	非該当	40	7.2
99	無回答	12	2.2
	合計	558	100.0

【旧町村部】		%	
1	身近に感じる	26	4.1
2	ある程度身近に感じる	74	11.7
3	特に変わらない	165	26.1
4	ある程度遠く感じる	149	23.6
5	遠く感じる	188	29.8
	非該当	20	3.2
99	無回答	9	1.4
	合計	631	100.0

[3] すべての方にお聞きします。鳥取市の合併について、あなたは現在、どのように評価していますか。一つ選んで○を付けてください。

【旧鳥取市】		%	
1	大いに評価できる	24	4.3
2	ある程度評価できる	127	22.8
3	どちらともいえない	258	46.2
4	あまり評価できない	117	21.0
5	全く評価できない	27	4.8
99	無回答	5	0.9
	合計	558	100.0

【旧町村部】		%	
1	大いに評価できる	23	3.6
2	ある程度評価できる	128	20.3
3	どちらともいえない	148	23.5
4	あまり評価できない	221	35.0
5	全く評価できない	103	16.3
99	無回答	8	1.3
	合計	631	100.0

[4] すべての方にお聞きします。あなたは合併後の鳥取市で、市長選挙や市議会議員選挙には行っていますか。一つ選んで○を付けてください。

【旧鳥取市】		%	
1	毎回必ず行く	350	62.7
2	だいたい行っている	138	24.7
3	あまり行かない	17	3.0
4	ほとんど行かない	12	2.2
5	行ったことがない	39	7.0
99	無回答	2	0.4
	合計	558	100.0

【旧町村部】		%	
1	毎回必ず行く	468	74.2
2	だいたい行っている	113	17.9
3	あまり行かない	15	2.4
4	ほとんど行かない	9	1.4
5	行ったことがない	20	3.2
99	無回答	6	1.0
	合計	631	100.0

[5] すべての方にお聞きします。鳥取市が合併したことにより、現市のまちづくりに必要な財源として「合併特例債」を活用することができますが、これについて、次の二つの考え方があります。どちらかといえば、あなたの考えはどちらに近いですか。一つ選んで○を付けてください。

【旧鳥取市】		%	
1	返済にあたり7割を国が負担してくれるので、積極的に活用すべきである	167	29.9
2	借金であることに変わりはないので、活用は最低限にとどめるべきである	383	68.6
99	無回答	8	1.4
	合計	558	100.0

【旧町村部】		%	
1	返済にあたり7割を国が負担してくれるので、積極的に活用すべきである	191	30.3
2	借金であることに変わりはないので、活用は最低限にとどめるべきである	430	68.1
99	無回答	10	1.6
	合計	631	100.0

現在の鳥取市は、平成16年に旧8町村が編入合併して誕生した新自治体である。いわゆる「平成の大合併」で誕生した市町村で住民投票が行われたのは、同様の観点から調査を行った佐久市に次いで2例目であったため、市町村合併にともなう感情や評価などと、住民投票における態度形成や投票行動との関連性についても、本調査および今後の研究において探ることとしたい。

まず、合併時点での居住地について尋ねた[1]を見ると、「その他の市町村」と回答した人の割合は旧鳥取市で6.6%、旧町村部では2.4%にとどまる。したがって、本調査における回答者の多くは、旧市町村のいずれかの住民として鳥取市の合併を経験しており、市町村合併によって生じた意識や感情と住民投票との関連性について分析する上でも、必要十分な調査データが得られたと言ってよい。

そのうえで[2]の集計結果を見ていくと、現在の鳥取市に対する親近感は、旧市内

と旧町村部で大きな開きがある。旧市において特徴的なのは、「特に変わらない」が6割以上に達する点である。旧市町村の中で旧鳥取市は県都であるだけでなく、自治体規模の面でも紛れもなく中心的存在であり、旧市の住民にとっては、合併前も合併後も「鳥取市民」であることに変わりはないため、このような集計結果になるのはごく自然なことと言える。一方、旧町村部では「ある程度遠く感じる」と「遠く感じる」の合計が半数を超え、合併前の旧市町村と比べて現在の鳥取市に対して心理的な距離感を感じている住民が多いことが分かる。旧町村間でさらに詳細に比較すると、「ある程度遠く感じる」と「遠く感じる」の合計が6割以上となるのが用瀬、佐治、鹿野の各地区で、逆に国府町だけは鳥取市の中心部から距離的に近いこともあってか、他の7地区とは回答傾向が異なり、「身近に感じる」の合計も「遠く感じる」の合計も、ともに3割強である。

続いて〔3〕では、佐久市の合併に対する現時点での評価を尋ねているが、ここでも旧佐久市と旧町村部において〔2〕と比較的似たような傾向が見られる。「あまり評価できない」と「全く評価できない」の合計は旧鳥取市では約4分の1にとどまるのに対し、旧町村部では約半数に達している。合併そのものに対する不満も、やはり旧町村部では相対的に強いと言える。

また、いずれの地域においても、合併に対する評価と投票行動との間に一定の相関関係を読み取ることができ、合併を肯定的に評価している人ほど新築移転案に賛成し、合併への不満が強い人ほど耐震改修案に賛成する傾向が見られる。その傾向は旧町村部においてとりわけ顕著で、新築移転案に賛成した人の割合は、鳥取市の合併を「大いに評価できる」と答えた人で7割を超え、「ある程度評価できる」人でも6割近くに達している。逆に合併を「全く評価できない」という人では、耐震改修案に投票したという回答が約4分の3に達し、「あまり評価できない」人でも約65%が耐震改修案を選択している。したがって、これらのことから、合併に対する評価もまた、住民投票における賛否の行動を規定する要因として一定程度まで作用していたと考えられる。

〔4〕では、合併後の市内における選挙での参加度を尋ねた。「毎回必ず行く」と答えた割合は、旧市内でも約63%と比較的高いが、旧町村部ではそれをさらに10ポイント余り上回る数値となっており、平成22年に行われた市長選や市議選の投票区別投票率の傾向と概ね合致する。なお、住民投票における投票参加／棄権とのクロスデータを確認すると、合併後の市長選や市議選に「行ったことがない」と答えた人でも、旧市および旧町村部でそれぞれ3割前後が住民投票に参加したと回答している。「行ったことがない」の回答数自体は少ないものの、住民投票では、普段の選挙に足を運ばないような有権者に対しても関心を喚起することに、ある程度まで成功したと言えそうである。

最後に〔5〕では、合併特例債についての考えを尋ねている。これに関しては居住地域による差は見られず、いずれの地域でも7割弱の人が特例債の活用は最低限にとどめるべきと考えていることが分かる。また両地域ともに、「活用は最低限にとどめるべき」とする人のうち8割前後が耐震改修案を選択しており、庁舎整備のコストは極力抑えてほしいというのが、住民投票結果の意味するところであると解釈できる。ただ一方で、

[5] を無回答としたうえで、欄外に「わからない。そんな財源があることも知らないです。」と記載した人や、「これ(※合併特例債)が今回の住民投票に迷った主要因です。両者に○できず。」と記載した人もおり、投票理由の記述などを見ても、合併特例債のしくみや特例債の存在自体が十分に理解されていない面もあるように感じられる。